

韓国晋州保健大学との交流報告

韓国訪問記

中尾理恵子¹・浦田 秀子¹・中島 久良¹

保健学研究 21(1): 33-40, 2008

(2008年7月31日受付)
(2008年9月8日受理)

はじめに

長崎大学医学部保健学科と韓国晋州保健大学の大学間交流は1995年から開始され(当初は医療技術短期大学部), 教員間の学術交流, 学生間のホームステイを主とした学生交流を続けている。平成19年8月26日から8月29日にかけて学生8名と教員2名で韓国晋州保健大学を訪問し3泊4日の交流を行なった内容を報告する。(図1 晋州保健大学の位置)

訪問準備と交流学生の募集

今回の訪韓にあたり, 6月に入ってから訪問希望の学生を募集し, 1年次生4名, 2年次生1名, 4年次生2名の8名(看護学専攻7名, 作業療法学専攻1名)が決定した。2年次生の1人は, 前年度に晋州保健大学からの学生交流を受け入れた際のホスト学生であった。4年次生は, 卒業研究で日韓の看護学生の喫煙問題をテーマにしており, 今回の訪問は韓国の若者の喫煙の実状調査を兼ねた参加であった。しかし, 2, 3年次生の希望者が少なく, 訪問した折に晋州保健大学から訪問学生が少ないことを気にした言葉をかけられたので, 今後は早い時期から募集を行なって交流学生の確保をする必要があると思われた。

訪韓が決定した学生には, 事前にオリエンテーションを開き, 渡航準備や体調管理について説明を行なった。学生たちの意気は揚がり, 訪問時のレクリエーションの打ち合わせや浴衣の持参などの相談も行なっていたようであった。

出発と韓国到着

往復の交通の確保は, 長崎県交通観光株式会社に依頼し, 長崎 博多港は専用バス, 博多港 釜山港はジェットfoil「ビートル」で行った。費用は, 往復の交通費その他で, 1人あたり25,400円であった。専用バスは, 大学病院前を午前6時30分に出発する予定であったが, 学生2名が集合時間に若干遅れるというハプニングがありながらも無事に博多港に到着し, 10時15分発のビートルに乗船することができた(写真1)。

釜山港では, 晋州保健大学国際観光学科の崔鎔赫先生



図1. 晋州保健大学の位置



写真1. ジェットfoil「ビートル」で釜山に到着

と慎鏞勲さんが出迎えてくださった。慎さんは私たちと訪韓中の行動をともにして写真撮影を担当して下さった。釜山のおいしい冷麺の食堂で昼食をとった後, 専用バスで約1時間半移動し, 午後4時頃に晋州保健大学に

1 長崎大学医歯薬学総合研究科

到着した。晋州保健大学は、小高い丘の中腹にあり、上り口の正門に「歓迎 教授・学生 交換訪問」の大きな横断幕が掲げてあり盛大な歓迎ムードで迎えられた。また、我々の訪問は地元の新聞に掲載され、後日新聞のコピーを頂いた(写真2)。学内での歓迎式では、鄭宗權学長が歓迎の挨拶をくださり、訪問団を代表して浦田秀子教授が挨拶した。通訳は、崔鎔赫先生が担当してくださった。学生たちは、歓迎式でホスト学生と対面し、事前に勉強してきたお互いの相手国の言葉を使って自己紹介をした(表1)。その後、市内のレストランに移動して歓迎晩餐会が催された。すき焼き風の鍋料理に学生たちは感激しながらお腹いっぱい食事をして、浴衣に着替えて練習してきた歌と踊りを披露した。晋州保健大学の学生たちも風船をつかった歌とダンスで迎えてくれた。楽しい雰囲気の中で温かい晩餐会であった。晩餐会終了後解散となったが、学生たちはホスト学生たちと一緒に晋州市内の夜の観光を楽しんだようである(写真3)。

2日目と3日目の行程

2日目は、晋州保健大学構内の見学からスタートした。晋州保健大学は、看護学科の他に、歯科衛生科、歯科技工科、皮膚美容科、臨床病理科、国際観光系列、医療福祉情報系列などの学部を持つ私立大学であり、大学構内



写真3. 初日の歓迎晩餐会の様子

には多くの実習室や教室があり、説明を受けながら見学するのが大変なほどであった。歯科衛生科の実習室では大学の秋のフェスティバルで一般住民の歯科衛生サービスを実際に行っており、地域に密着した活動がなされていた。

構内の見学後に晋州城に移動し園内を見学しながら散策した後、午後は晋州保健大学の看護学生が実習を行なっている病院の1つである慶尚大学病院を見学した。慶尚大学病院は、救急医療から癌のターミナル期の医療までを行なうという大規模で近代的な病院であった。病院内は清潔で明るい雰囲気であり、ロビーや待合室、病棟の廊下の広々とした空間に観葉植物の鉢植えが置いてあった。病棟には、患者が終末期に家族と共に過ごすための病室があり、調度品やベッドなどくつろげる雰囲気でもごせるように配慮されたものとなっていた。

バスで老人総合福祉施設「常楽園」の見学をした。常楽園は、山手にある施設でカラオケや入浴施設、ビリヤード台、運動機器、趣味のための研修室などがあり、毎日シャトルバスで多くの高齢者が市街地から訪れているそうである。お年寄りがビリヤードを楽しそうにしていたのが印象的であった。そこから教員は大学に戻り会議室で共同研究の打ち合わせを行なった。

3日目は、順天市の樂安邑城民俗村を訪れた。この村は、14世紀の村の形態をそのまま保存しており、城壁に囲まれかやぶきの屋根と土塀の家で100世帯ほどの人々が生活しているそうである。電信ケーブルなど見えなかったのだが、電気は通っていないのか質問したところ、地下ケーブルで通っているようで扇風機などは使っているようであった。大学に戻る途中のドライブインで昼食をとったが、韓国の人が通常利用する店であり、キムチが何種類も並び、もち魚のから揚げなど本格的な韓国料理であった。晋州市については、自由行動で学生たちはショッピングなどを楽しんでいた(写真4)。

最終日

最終日の朝は、午前9時に大学に集合して送別式が行われた。教職員も多数見送りにきてくださり、学生たちは4日間の生活の別れを惜しんで抱き合って感涙してい



写真2. 地元新聞紙に掲載された記事

活動報告

表1．韓国晋州保健大学訪問日程

日 時		内 容
8月26日 (日)	6:30	長崎発(専用バス)
	9:30	博多港着
	10:15	博多港発(ビートル109便)
	13:10	釜山港着 入国手続き
	15:00	釜山市内で昼食後,専用バスで晋州へ
	16:50	晋州保健大学到着 歓迎式,自己紹介
	18:20 20:00	歓迎晚餐会 解散(ホームステイ)
8月27日 (月)	9:30	大学集合
	10:30	大学構内・施設見学
	11:00	晋州城見学(専用バスで移動)
	12:30	昼食
	14:00	慶尚大学病院見学
	15:30	常楽園(老人総合福祉施設)見学
	16:30 18:00	晋陽湖見学 学生は解散(ホームステイ),共同研究打ち合わせ(教員)
8月28日 (火)	9:00	大学集合
	10:30	楽安邑城民俗村見学(専用バスで移動)
	12:30	昼食
	13:30	大学に移動後,解散(自由行動,ホームステイ)
8月29日 (水)	9:00	大学集合
	11:00	釜山へ移動
	12:00	昼食
	13:45	釜山港発(ビートル226便)
	16:40	博多港着入国手続き
	17:30	博多港発(専用バス)
	20:00頃	長崎着,解散

た。バスに乗り込むまでに時間がかかったが、なんとか釜山港に時間内に到着しフェリーターミナルで最後の昼食の石焼ビビンバをとり、午後1時45分発のビートルに乗り込み韓国を後にした。

学術交流について

2日目の夕刻に晋州保健大学看護学科の教員一同と浦田教授、中尾が参加して共同研究の打ち合わせをおこなっ



写真4．楽安邑城民俗村の様子(学生の後ろに見えるのがかやぶき屋根の家々)

た。劉鐘根先生の通訳を通して今後の共同研究のテーマについての討議がなされた。長崎大学からは、前年度に長崎で行なわれた際に出されていたテーマである「老人看護分野」、「癌患者のケア」、「ホスピスケア」、「喫煙問題関連」があり、今回晋州保健大学側から7テーマが出された。これらのテーマは、長崎に持ち帰り、共同研究の可能性を話し合うこととした。現在進行中である、ガン-マルスン教授と中尾の間で共同研究している「看護学生の喫煙に関する研究」については、長崎で集計したデータを持参して、今後の具体的な進行についての話し合いをすることができた(表2)。

本学学生の感想文

以下に今回、晋州保健大学訪問に参加した学生の感想文を掲載する。なお、文章表現は学生の記述そのままとしている。

晋州保健大学訪問を通して

看護学専攻4年 成沢 優子

私は、一昨年度に晋州保健大学を訪問したことがあり、今回は2回目の訪問であった。また、昨年は韓国の学生のホストになったこともあって、韓国の学生との交流は

表 2 . 共同研究希望テーマ

晋州保健大学からの研究テーマ	長崎大学からの研究テーマ
1 . ホスピスに関する研究 2 . 腎不全の患者管理に関する研究 3 . 慢性期患者への太極拳の効果 4 . 障害のある小児に関する質的研究 5 . クリティカルシンキングに関する研究 6 . HIMSを活用した体重管理 7 . 看護学生の喫煙に関する研究	1 . 老人看護に関する研究 2 . 癌患者の治療と疼痛コントロールの研究 3 . ホスピスに関する研究 4 . 喫煙と健康管理に関する研究

毎年とても楽しみな行事の一つになっていた。そして、今回の訪問も、今まで以上に大変充実した時間を過ごすことができたように思う。特に今回私を受け入れてくれたホストはとても日本に関心があり、英語だけでなく日本語もとても上手であった。そのため、互いに大学生活のことや、将来のことなど本当にいろいろな話をすることができた。また、それぞれ自分の国のことや教育のことなど、深い話もできたことが本当に印象に残っている。そしてそのような中でホストやその友人が、「あなた達は、まるで韓国の友達と同じようだ」と言ってくれたことがとても嬉しかった。また、私達も、彼女達のことを日本にいる友人と何も変わらないように思えた。最初コミュニケーションをとる中では伝わりにくいこともあったが、4日間一緒に過ごしていると多くのことが、問題なく分かり合えるようになっていた。このように、文化や言葉が違っていても、こんなにも通じ合うことができるし、本当に身近な存在に思えるのだと改めて感じさせられた。そして、日本に帰ってからも、すぐにメールのやり取りやチャットをしたり、メッセージャーを利用して会話することもでき、お互い韓国と日本にいてもこのようにつながっていけるのだと実感したし、この関係を大切にしていきたいと思った。

また、今回の訪問で印象に残っていることの1つは、昨年私の家にホームステイした学生達が、実習中にもかかわらず会いに来てくれたことだ。またその時に、「去年、日本でとてもよくしてもらっていい思い出ができたから、今回は恩返しをしたい」と言って韓国の街を案内してくれたり、食事に連れて行ってくれたことが非常に嬉しかった。また、互いに看護の実習の内容なども話し合えたことも楽しい思い出になっている。以前は、私達に共通している看護の分野について互いに語ることがなかなかできなかったため、今回は本当に貴重な経験になった。また、働き出してからさらに、自分達の国の看護や、看護観などを互いに話すことができれば、さらに看護を深めることができるし刺激になるだろうと感じた。今回韓国で再会することができて、このような交流をさらに続けていきたいし、つながっていけたらなと感じた。そして、今後さらにこのような学術交流も深まっていき、互いの国の看護や学校の看護実習などについてももっと

話し合ったりしていける機会があるといいのではないかと感じた。

最後に、私は今回2回目の訪問であったが、ホームステイだからこそ味わえる貴重な経験が前回以上にできるように感じる。また、今回の訪問による韓国のたくさんの人々との出会いが大きな財産になった。本当に、4日間一緒に過ごし、楽しい思い出を作ってくれたホストやその家族、そして引率して下さった先生方に感謝したいと思います。

学術交流を終えて

看護学専攻4年 南 亜梨沙

今回の学術交流は、私にとって初めての韓国旅行、初めてのホームステイ、初めての共同研究であり、大学生生活最後の夏休みを飾るに相応しく非常に刺激的なものとなった。4日間という短い時間で韓国の医療事情や看護事情を十分に把握できたとは言いきれないが、実際に施設を見学して韓国の医療が日本の医療に勝るとも劣らない勢いで成長し整備されていることを肌で感じる事ができ、日本と同じ疾患を持つたくさんの患者様が居ることや文化や風習が違って医療・福祉の必要性は変わらないことも改めて感じる事ができた。そして、そのような現場で働く韓国の看護職者の方々から話を聞いたり、何より私達と同じ様に看護を学んでいる学生達と触れ合うことで、国境を越えて看護に携わる仲間が沢山いる事を実感した。それは想像以上に嬉しく心強いもので、私の中で国際的な看護に目を向けることに繋がったと思う。

学生との交流については、日韓の歴史問題が気にかかり向こうに着くまでは受け入れてもらえるか心配していたのだが、着いてみれば大学を挙げて手厚く歓迎して頂いた上に学生ともあつという間に仲良くなる事ができ、心配は全く必要なかった。日中は貸しきりバスと一緒に晋州周辺を観光したり、病院・施設見学、学校見学もさせていただいた。晋州周辺にはチャングムの誓いの撮影地などもあり、皆でわいわい騒ぎながら写真をとったのもよい思い出だ。ステイ先の友人とは夜中までスパで遊んだり、本場の韓国料理を食べに連れて行ってもらったり、また、韓国での日常生活や若者の流行を教えてもらったりと、韓国人ライフをたっぷり堪能させてもらった。

言葉は全て通じなくても、皆で笑って、話して、一緒に過ごせたことでわかりあえることが沢山あり、国籍の違う友人たちとこのような時間を共有できたことが一番の思い出となった。とにかく本当に濃くて貴重な4日間を過ごし、忘れられない学术交流となった。

そのような夏を経て、現在4年の私たちは晋州保健大学との共同研究の論文作成に取り組んでいる。言葉の違いなどで苦労もあったが、国際研究の楽しさを知ることができた。めったにないこのような機会を与えてもらったことを本当に大変ありがたく思っている。研究で疲れていても、韓国で撮った写真を眺めたり、ホームステイ先のお母さんが持たせてくれた手作りコチュジャンでスタミナ料理を作ったり、気分転換も楽しみの一つになっている気がする。

最後に、晋州保健大学の皆さん、ホストファミリーの皆さん、そして日本から共に韓国へ渡った先生方、学年を超えた学生の仲間達、本当に貴重な思い出をありがとうございました。この旅と皆の笑顔は一生忘れません！

晋州保健大学との学术交流に参加して

看護学専攻4年 増山亜由美

8月26日から29日の3泊4日の予定で韓国の晋州保健大学との学术交流に参加しました。私が今回、参加を決めた理由として、他国の看護学生と交流するという機会は今、学生時代にしか経験ができなかったからです。しかし、ホームステイも初めてで、韓国語もわからないし、英語もほとんどできないので不安もありましたが、参加して本当によかったと思います。

まず、26日は移動がほとんどで、韓国語の本やガイドブックをみながら、韓国で過ごす4日間を考えていました。晋州保健大学に到着すると、長崎大学歓迎の横断幕がかけられており、とても驚きました。到着後はホームステイ先となる学生と対面し、韓国の学生の方は日本語を交えた上手な自己紹介をされていました。私も自己紹介をしましたが、スムーズではなく、もう少し練習しておけばよかったと後悔しました。ホームステイ先の学生は、高校で日本語を選択して勉強した経験があるために、日本や日本語にとっても興味を持っていました。晩餐会の際には韓国出身の歌手や日本の映画やアニメ、韓国と日本の携帯電話の違いなどを話しながら楽しみました。交流中はとても積極的な彼女のおかげで、楽しく過ごすことができ、すぐに打ち解けることができました。彼女の家族も、日本や他国に興味のある方で、地形や包丁や皿など日本製品についても話しました。

27、28日は、晋州保健大学内、晋州の癌センターなど病院、福祉施設の見学、晋州やその近辺を観光しました。大学内はさまざまな専攻科があり、さまざまな施設がありました。癌センターはさまざまな設備もあり、とてもきれいでした。実際に治療する前に、使用する機器を体験してから、治療できるということで、患者さんもその

機会や治療する雰囲気になれることができるのでとても素晴らしいと思いました。福祉施設も日本とは少し異なっていました。使用する高齢者の経済面によっても異なるということでした。入浴や古典芸能をしてすごすのは日本のデイサービスと似ていると思いました。しかし、利用する方は元気な方ばかりで、麻痺を持っている人など利用するというではありませんでした。観光は朝鮮戦争に関連する寺院や韓国ドラマに使用された村や湖を観光しました。

移動中などに韓国での国家試験についても話しました。ホームステイ先の学生のお姉さんも看護師を目指しており、来年国家試験を受けるということでした。彼女のお姉さんは夏休みも学校で1日12時間勉強しているということで、こここのところは私自身も見習わなければならないなと思いました。これから、私も国家試験を控えているので、頑張らなきゃいけないなと思いました。

最後に、この学术交流に参加して、大学時代のとてもいい思い出になりました。この機会に出会えてとてもよかったです。

韓国・晋州保健大学との交流に参加して

看護学専攻2年 増田ひかり

去年、韓国の学生を受け入れたので、今年は絶対に行くこと決めていました。しかし、2年生は私一人だけ。内心、不安でいっぱいでした。1日目。一緒に行った学生とすぐに仲良くなれて、不安もいつのまにか消えていきました。ホストの学生も、とてもフレンドリーな子ばかりで、すぐに打ち解けられました。私のホストはヘンジーというとてもかわいい子でした。私は韓国ドラマが大好きでよく見ていたので、韓国のドラマの話や俳優の話で盛り上がりました。言語の壁も、辞書を引いたり絵を描いたりして特に大きな問題はありませんでした。ホストファザーとホストマザーは英語が話せなかったので、ヘンジーに通訳してもらい、コミュニケーションをとりました。ヘンジーがいないときも、ボディランゲージなどで、なんとか会話をしました。長旅で疲れているだろうと気遣ってくれて、早めに就寝しました。

2日目。学校の見学をしました。とてもきれいな大学で、驚きました。とてもうらやましいです。病院見学にも行きました。ERなど、普段見学できないようなところまで見学させていただいて、本当に貴重な体験をしました。私のなかで、日本の医療はすすんでいるというイメージが強かったのですが、がんセンターの放射線治療の機械など先端だったので、とても意外でした。病院をまわっている途中で、実習生に会い、よく見ると、去年受け入れたヒョンアでした。まさか会えると思っていなかったのも感動しました。家に帰って、看護を学ぼうと思ったきっかけ、学校生活について、これからの夢、不安など、夜遅くまでヘンジーと語りました。韓国の看護や看護師について、色々教えてもらいました。

英語が堪能なわけでもないし、会ってそんなに時間がたつてるわけでもないのに、とても深い話が出て、本当にこの交流に参加してよかったと思いました。

3日目。自由時間が多かったため、ホストファミリーと出かけました。言語は通じなくても、一生懸命話しかけてくれて、分かり合えたときは、涙がでそうなくらい嬉しかったです。家に帰って、チマチョゴリを着せてもらいました。私も浴衣を持っていったのでヘンジーに着させました。とてもいい思い出になりました。

4日目。短い期間だったけど、別れはとても辛かったです。ホストファミリーや大学の方に、感謝でいっぱいです。交流に参加する前は、こんなにも濃い4日間になるとは思っていませんでした。今となっては、ずっとずっと忘れられない4日間です。

浦田先生、中尾先生をはじめ、一緒に行った先輩・後輩に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

韓国の思い出

看護学専攻1年 藤原 章子

私にとってこの韓国旅行は初めての海外旅行でした。今まで英語が苦手と外国に興味もなかったので行きたいと思うことがありませんでした。今回参加したのは、韓国語をとっていたということと、費用が安かったということです。せっかく大学に来たのだから何かやりたいという思いもありました。出発前にどうせ行くなら・・・と浴衣とタッキー&翼の「Venus」を踊って歓迎会で披露しようと山口さんと相談し練習していきました。食事会の時に皆で踊り喜んでもらえたので練習してよかったと思いました。

私のホストの子はウンスンという1年生の子でした。家族はお父さん、お母さん、高校3年生の弟の4人家族でした。弟さんは11月の大学入試に向けて猛勉強していました。お父さんとお母さんはとても仲良しで、部屋の中に沢山写真が飾ってありました。お父さんは出張で東京や京都・福岡といったことがあり、日本語と英語を知っていました。お母さんはとてもパワフルで親切で明るい人でした。ウンスンに私の浴衣を着せてあげた時、何とお母さんも着たいと言い出し、着せてあげたらお父さんに嬉しそうに見せに行く姿に私もああいう夫婦になりたいなと思いました。ウンスはジャニーズ大好きな女の子。インターネットで日本ドラマをチェックしているらしく私より詳しく。優しく私のことをいつも気にかけてくれて、私が車酔いした時とても心配してくれました。会話は主に英語でしたが、私が英語が苦手だったので大変でした。ウンスンが電子辞書を持っていて韓国語を日本語に直してくれることもあったけど英語でほぼ会話はできました。発音が下手で筆談することもありました。

ここで、私が感じた日本と韓国の違いをここが変だよ！

ここがすばらしいよ！！韓国ということで書いていきたいと思います。まず変からいきたいと思います。

1つ、道路が日本と逆、車の運転がとても荒い、特にバス、タクシー（初めてバスで酔いバスを止めてしまいました・・・本当に吐くと思いました）

2つ、女子高生の制服が上半身ピチピチ。短ランみたいな感じ（身体のラインを出すのがセクシーでそれが流行らしい）

3つ、店の店員がずっとついてまわる。特に化粧品（そういう文化なのだということ、でも日本人ですというと離れてくれた）

続きまして素晴らしいところ

1つ、近所仲がいい（お母さんがフライパンに入れた煮豆をご近所に配ってまわったり、お隣のお父さんが私に来ていたことをすでに知っていた）

2つ、野菜をいっぱい食べる（焼肉は野菜と一緒に食べていました。かなりヘルシー）

3つ、鏡がとても多く美意識が高い（ウンスはいつもバックの中に手鏡を持っていた）

4日間は観光、病院・大学・施設見学と盛り沢山。病院内にホスピスがありましたが、日本と違い亡くなる2～3日前に入るところだそうで、一般病棟の中にあつたことが驚きでした。特別室はホテルのような豪華さでした。長崎にはないと思います。大きな川や湖が沢山あって自然が豊かなところでした。観光が終わって夕方の自由時間は2年生の増田さんとホストの子と4人で食事したり、買い物したり、公衆浴場に行ったりと書ききれないほど思い出がいっぱいです。韓国の子達は私が最年長だったので「お姉さん」と呼んでくれました。最終日の夜はお父さんが焼肉とライトアップされた綺麗な橋を見せてくれました。大雨が降っていたのに橋を見ていた時は雨がやんでくれました。

ホームステイだからこそ韓国文化に直接触れることもできました。大学主催でないこういったことは参加できません。本当に参加してよかったと思いますし、韓国人の優しさに触れ韓国が大好きになりました。異文化に触れることで自分の語学力を高めるきっかけになりますしその必要性を感じることが出来ます。沢山の出会いができたことで自分が成長できたと思います。こういった出会いを与えてくれた大学に感謝したいと思います。私を支えてくれた先生方、長大メンバー7人、ホストファミリー、そしてホストの子達に出会えたことは私の夏休みの一番の素晴らしい出会いです。本当にありがとうございました。

韓国交換留学に行つて

作業療法学専攻1年 山口 陽子

今回のような交換留学は多めに利用すべきだと思う。というのも、今回初めて外国に行った私にとって、非常にいい経験ができたと思うからである。違う文化を持つ

活動報告

人たちとの交流の中で様々な驚きがあり、また共通する点が見つかる親近感が沸くのだ。また、旅行と違いその国の生活風景、家族間との関係、地元の人が住む町並み、母国語が話せない環境など、旅行では体験できないことが自分にとっては色々と考えさせられる良い機会となった。

今回の交換留学において一番心配だったコミュニケーションだがほとんどが英語だった。私の英語能力は単位が危ういというくらいのレベルなのだが、ありったけの英語とジェスチャーや筆談、絵を書いて説明したりして何とか疎通が取れたのである。これには、韓国の学生の英語が上手なこと、加えて日本語も勉強している子も多く親切に接してくれたおかげだと思う。しかし、自分の言いたいことや相手の言っていることが半分わかるといった感じだったので英語の勉強の必要性を強く感じた。

私が行ったホームステイ先は両親が共働きで忙しい中、お母さんが私にご飯を食べさせてくれることを気遣ってくれたり、弟が日本に興味があるからと話しかけてくれたりと、家族のように扱ってくれた。夜はパートナーの子がほとんど外に連れ出してくれて、家にいる時間は寝に帰るといった感じであった。日中は観光が主で、移動はバスである。日本と歴史的に関係のある町なので、いくつかの文化遺産である戦場の跡地に連れて行ってもらった。(観光のときも韓国の学生も一緒であった)最後の

日には自由行動があり、お土産を買いにダウンタウンへ行き、学生同士でご飯やスパに行っておくさん楽しんだ。韓国にいる間はほとんどがパートナーであるステイの子と一緒に本当になんか仲良くなれる。身の回りのことはほとんどお世話してもらい人の優しさを感じることができた。次回の交換留学にも是非参加したい。そして、自分がされてきたことを長崎に来たホームステイの子にあげたいと思う。このような機会を設けてくれた先生方、韓国の大学の先生方に感謝である。

おわりに

長崎とわずか数百キロしか離れていないお隣の国である韓国で、学生・教員ともども興味深い経験をしたと思う。学生たちは、ホストファミリーのお宅で、温かく迎えられ家庭料理をたくさんごちそうになり、チマチョゴリを着せてもらい、ホスト学生の友人たちとも一緒に青春を謳歌して毎晩楽しく過ごしたようであった。お土産には、韓国のお母さんが作った自家製のキムチを抱えきれないほどもらって帰った。韓国の地方都市である晋州市では、人間関係の温かさを持って訪問者への接待の礼儀をつくす文化が生きていたように思う。晋州保健大学の教職員の皆さんと学生一同から受けた細やかな配慮と心配りに感謝したいと思う。

Report of Academic Cooperation between Nagasaki University and Jinju Health College in 2007

Rieko NAKAO¹, Hideko URATA¹, Hisayoshi NAKAJIMA¹

1 Department of Nursing, Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki University

Received 31 July 2008

Accepted 8 September 2008